

●墨田区における最近の実績紹介

弊社の頭文字Uの2名は、担当した計画は必ず具体化することを信条に業務を遂行するコンビであるが、今回は、東京スカイツリーの開業を控え、いよいよ慌ただしくなってきた墨田区における最近の実績を紹介する。

1. 墨田区循環バス「すみだ百景 すみまるくん・すみりんちゃん」が運行開始

この計画を開始したのは平成20年度からであり、観光客に区内の回遊を楽しんでもらうとともに、高齢者をはじめとする区民の生活利便性を向上させることを目的に、スカイツリーのある押上駅を結節点として区内を南部、北西部、北東部の3つのエリアに分け、各エリアを循環する3ルートを計画した。

このたび、運行事業者も決定し3月20日に運行を開始している。車内では区内の観光情報を動画で流すなどの工夫もされている。

公募で決定したバスの愛称が2種類ある理由は「すみりんちゃん」が電気バスとして導入された1台のためである。

2. 「向島観光案内板」が竣工

都内最大の花街でもある向島は、多くの文人や偉人とのゆかりが深い地域だが、こうした歴史は説明が無いとわかりにくいものであり、街並みの風情もかつての趣を失っている。

そこで、地域の歴史や文化を多くの人々に知ってもらい、新たな観光回遊を創出するために観光案内板の設置が必要とされていたため、筆者も会員として活動している墨田区認定まちづくり団体「向島町おこしの会」が、「歴史的建造物を活かした観光まちづくり事業」を活用して文人・偉人の旧居跡を紹介する観光案内板を14箇所設置した。

事業活用のための企画書・申請書、竣工までの全体のコーディネートを担当し、3月31日に無事に竣工したため、墨田区長はじめ観光協会理事長などを招いて除幕式を開いた。

この案内板の特徴は、花街向島に合わせた格調高いデザインであり、板面のQRコードを携帯電話などで読み込めば説明文の音声案内や近隣の店舗情報が取得できる。

<http://www.e-mukojima.com/?page=3>

海口 晴彦（第二計画部）

●排出枠取引で新制度を模索

いま、我が国は温暖化防止で世界に存在感を示すべく、新たな制度を模索している。昨年末に南アフリカ・ダーバンで開催された地球温暖化対策を協議する国連気候変動枠組み条約（COP17）において日本は、米中等の主要な排出国が参加しない京都議定書に対して来年（2013年）から始まる第二約束期間への不参加を表明した。削減義務は負わないが、議定書自体からは離脱しないため削減量などの報告義務を負う。

国内での排出削減が限界に近づいている日本は、途上国への技術移転で作り出す排出枠に頼らざるを得ない。しかし、その仕組みであるクリーン開発メカニズム（CDM）は国連審査の長期化による排出枠の遅れ、厳密な計測、日本が得意とする省エネ技術が承認されないなどの課題が浮き彫りになってきた。そこで硬直的なCDMに代わり、日本と途上国の二国間での合意に基づく柔軟な仕組みとなる新たな制度を模索している。それが「二国間オフセット・クレジット制度」である。

CDMでは導入例が極めて少ない運輸交通分野での期待も大きい。各国の削減目標達成のために二国間クレジットが活用できるかは今後の議論の進展によるが、先進国と途上国がともに受け入れやすい新制度をポスト京都議定書の交渉に取り込むことで、不参加の米中や途上国も合意する可能性がある。

この新制度は来年1月開始を目標に、現在、経済産業省・環境省において制度設計の検証段階に入っている。

倉岡 明子（第一計画部）